

第3回 武蔵野市図書館運営委員会の主な内容

日 時 平成 14 年 11 月 25 日 午後 6 時
場 所 中央図書館 4 階会議室
出席委員 小池 滋 齊藤 洋 佐治俊彦 浜 俊子
藤井佐和子 宮部博史 山崎三省 山本ふみこ

議題

前回会議要録の確認
特に問題点、訂正はなく確認された。
前回の課題について
武蔵野市立図書館の運営について

主な発言要旨は以下のとおり

- 委員長 委員会を開会する。前回会議に引き続き課題について協議したい。
前回、新刊本の貸出制限について、期間を短くするか、冊数を制限するかという提案があったがこのことについてはどうか。
- 委員 一方的に制限というのは、利用者の反発も予想され難しいのではないか。他のことも含めて、利用者アンケートをとるということで、次回までに何を聞くかを決めてはどうか。
- 委員 新刊本の貸出冊数や貸出期間短縮の制限については、特定の人に偏らず公平にという観点からの話で、誰しも納得すると思う。他の点でアンケートをとる必要は認めるが、この件についてアンケートをとる必要はない。
- 委員 図書館の本の回転を早くしてほしいという意見を何人かの人から聞いた。新刊本についてはこういうことで回転が速くなりいいのではないか。
- 委員 選書部会の中で、特定の本だけ貸出期間を変えることはシステムの難しいと説明があった。それを考えるとすぐに実現するには、冊数だけの制限をするか、新刊本に限らず、全部の貸出期間を短くするかというしかないのではないか。
- 委員 システムはそのまま、新刊本については1週間で返却してほしいと約束をすればいい。新刊本とわかるようにシールを張り、一定期間そういう紙を本にいれておけばいいのではないか。
- 委員長 何らかの制限は必要という意見が大半かと思うが、具体的にどう決めるか意見を聞きたい。
- 委員 現行の5冊2週間を変えることから、3冊なら1週間、2冊まで制限するなら2週間というあたりでどうか。
- 委員 3冊1週間では読みきれないのではないか。

事務局 冊数の制限についてはすぐにできるが、貸出期間についてはシステムとの整合がとれない点で難しい。

委員 システムとの不整合は説明すればすむことではないか。

事務局 勤務の関係、働きながら子育て中の主婦等いろいろな事情を持った利用者もいるので、1週間でというのは厳しいと考える。

委員 事務局の意見もあるので2冊2週間ということでしょうか。

部長 新刊本の制限については、2冊2週間ということやってみたい。

委員長 前回議論した問題にベストセラーの問題があるがこの点はどうか。

委員 ベストセラーの本をどのような考え方でどのくらい購入しているのか、現状について伺いたい。

館長 予約を入れてから待つ期間を約3ヵ月という目途で、今までの経験則から、原則として、予約を待つ方が所蔵冊数の6倍を超えたら複本を1冊購入するというところで購入している。ただし、予約の入り方の勢いや、本の厚さ・薄さ、読みやすさ等も考慮して調整している。

委員 本の価格は考慮に入らないのか。

事務局 ベストセラーにはいわゆる高額本はなく、比較的安い本が多い。また、ある程度の冊数を購入するベストセラー本の予算に占める割合は1%に満たないため、今までは考慮には入れていない。

委員 要望が多いからと安易に増やしていいのか、全然読まれない本は本当に不要なのかということも議論しなければならない。

委員 選書部会で、1回も貸出されていない本のリストを5年間にさかのぼって出してもらった。何をもいい本というかという議論もあるが、仮にいい本だとしても、5年間読まれない本にお金をつかうことがいいのかという疑問が出てくる。それならその分で他の本を買ってもいいのではないかと思う。

委員 本の選び方、買い方の問題もあるのではないか。

委員 本の購入に際しては、選書の方式が様々ある。その中でどの方式のどこに誤りやすい点があるかを、選書部会で検討しており、いずれ報告したいと考えている。

委員 今説明があった、経験に基づいて購入しているというベストセラー本の買い方の、どこの何が問題なのか。予算が無いということなら分るが、予算上も1%に満たないということであれば、それでもおかしいと言うのかどうか。

委員 ベストセラー本をある一定の数までにして、他の本を買うという考え方もあるのではないか。

委員 今の議論はお金の使い方の問題だと思う。市の図書館は多くの人たちのためにあるということを最優先に考えれば、ベストセラー本が1冊あたり何人の人に読まれたかということで考えればいいのではないか。

委員 図書館の姿勢として、単なる貸本屋ではないという点がある。何冊でも買っていいということにはならないと思う。

委員 ベストセラーは市民の要望がはっきりしているが、いわゆるいい本というのは、

誰が買いたいのか、誰が必要としているのか人それぞれで違う。それをこうしようという方針はどう決めるのか。

委員長 それをこの委員会で考えようということで議論している。

委員 市民が何を望んでいるのか、何を求めて図書館に来るのが分っていないと議論できない。その点では一度アンケート調査をする必要がある。その上で、ベストセラーをどうするか、他の蔵書構成はどうかということ議論すべきではないか。

委員 武蔵野市は他市に比べてベストセラー本の購入は多いのか少ないのか。

館長 他市に比べて特別多いということではない。なお、貸出しの実態について実例をあげると、今までで一番多く購入した例は「五体不満足」で、1998年10月の発刊以来、40冊購入し今年8月12日までに1689回、1冊平均42回貸出され、その時点でもまだ11冊が貸出中であった。

委員 それだけ読まれれば傷みも激しいだろうし、それで十分役目を終えるのではないか。

委員長 アンケートについてはどうか。

事務局 今年度であれば、アンケート調査を実施する予算を若干ではあるが工面できる。

委員 今年度とはいつまでか。今から検討している時間はあるのか。

部長 来年3月までなので、次回委員会までにアンケート案をつくり示したい。それを委員会で検討いただき、今年度中に実施していきたい。

委員長 ベストセラー本について、1冊は貸出さない本を置くという案があったが、その点はどうか。

館長 これからのベストセラーについては、館内閲覧用をつくりたい。

委員 不明本が年間3000冊ほどあるというが、その問題も考えなければならないのではないか。

委員 対策等については図書館として検討しているのか。

館長 従来、磁気を利用したBDS（ブック・ディテクション・システム）というものがあり、中央図書館の3階にも入れているが、最近、ICチップという新しい方式が出てきている。こちらの方はまだコストが高いのだが、いずれこちらに変わっていく過渡期と捉え、今は情報収集を行っている段階だ。

委員 ICはまだ高いが、2、3年で安くなるはずだ。

委員 本の流通のほうで、ICを本に印刷するという動きもあると聞いている。

委員 その装備と3000冊の不明本のコストを考えたときに、予算的に見合うのか。

委員長 本日は時間もないので、この問題については、必要があれば改めて協議をしたい。

以上の協議の後、次回日程は、平成15年2月19日（水）18:00～と決まった。